



## 「明日は、第108回卒業式!!」

明日は、第108回卒業式です。この一年間、行事、委員会活動、クラブ活動、掃除にと学校全体をリードしてくれた6年生が卒業します。特に、縦割班掃除では、下級生に優しく掃除のやり方を教え、模範となってくれました。木曜日の最後の掃除では、下級生が、「一年間、ありがとうございました。中学校に行っても頑張ってください。」とお礼の言葉を送っていました。

卒業式の練習は、3日間でしたが、新しい中牟田小学校の伝統を作ってくれた6年生、胸を張って式に臨んでほしいと思います。

### 6年生の修了式の話

今日は、6年生の修了式です。

明日は、卒業式という、長い一生のうちの1つの大きな区切り目を迎えます。竹でいうと「節」にあたります。竹にはこの節があるから強いのです。この節目の時に、改めて自分自身の生き方を振り返り、立ち止まってしっかり考えてみるのが大切です。そして、あなたの節を太く強くして欲しいと思います。

今日は、皆さんに、ディズニーランドの話をしてします。ディズニーランドに1年前に子どもを亡くされた若い夫婦が訪れました。そして、レストランで「お子様ランチ」を注文しました。もちろんお子様ランチは9歳以下とメニューにも書いてあります。当然のごとく、「恐れ入りますが、このメニューにも書いてありますが、お子様ランチはお子様用ですし、大人には少し物足りないかと思われるので・・・」と言うのがマニュアルです。

しかし、アルバイトの青年は、マニュアルから一步踏み出して尋ねてみました。

「失礼ですが、お子様ランチは、誰が食べられるのですか？」

「死んだ子どものために注文したくて」と奥さんが応えました。

「亡くなられた子どもさんに！」とキャストは絶句しました。

アルバイトの青年は「そうですか。では、召し上がって下さい」と応じました。それから、「ご家族の皆さま、どうぞこちらの方に」と4人席の家族テーブルに夫婦を移動させ、子ども用の椅子を一つ用意しました。そればかりではありません。「子どもさんは、こちらに」と、まるで亡くなった子どもが生きているかのように小さな椅子に導いたのです。

このような行為はマニュアル破りの規則違反です。しかし、ディズニーランドでは先輩も同僚も彼の行動をとがめません。それどころか彼の行為はディズニーランドでは賞賛されるのです。

この出来事に感動した若い夫婦は、帰宅後に手紙を書きました。

「お子様ランチを食べながら涙が止まりませんでした。まるで娘が生きているように家族のだんらんを味わいました。こんな娘との家族だんらんをディズニーランドでさせていただくと、夢にも思いませんでした。これから、二人で涙を拭いて生きて行きます。また、二周忌、三周忌に娘を連れてディズニーランドに必ず行きます。そして、私たちは話し合いました。今度はこの子の妹か弟かを連れてきつと遊びに行きます。」という手紙がディズニーランドに届きました。

この話は、同情ではない、真の思いやりとは何かを考えさせる話だと思います。皆さんも、もう一度、「同情ではない真の思いやりとは何か」について考えてください。

最後に、お願いがあります。今日、家に帰ったら、お家の人に、「おげさまで明日は小学校の卒業を向かえることになりました。」とはっきりお礼を言って欲しいことです。恥ずかしがらず「ありがとうございました。」とお礼を言ってください。

**明日は、あなた達一人一人が主役の卒業式です。**

6年間の学習の成果を2時間の式の中で力一杯表現してください。

